

高知市地域福祉活動推進計画【第2期(2019～2024年度)】
重点目標の進捗状況(高知市社会福祉協議会)

		事業内容	取組状況(令和5年3月末時点)	進捗評価(令和5年3月末時点)		
				2024年度(目標値)	評価	今後の課題等
「ほおっちょけん」のひとづくり	ふくしの心を育む	〇ソーシャルメディアを活用した広報 ①ホームページ 随時情報を更新できるよう業者との打ち合わせを行い、内容の充実を図った。 訪問ユーザー数(実人数)26,929人(内、新規ユーザー26,110人)総ページビュー数92,049回 ②フェイスブック フォロワー数714人、掲載回数51回 ③インスタグラム 名士チャリティ色紙展示即売会、きずな農園で活用 合計フォロワー数747人、掲載回数…226回 ④ツイッター 名士チャリティ色紙展示即売会で活用 フォロワー数811人、掲載回数226回 ⑤公式LINE 令和4年度から運用開始。既存ユーザーの囲い込み、更なる啓発を図る目的で活用。 友だち登録133人 投稿回数20回 (新規)子育て世代を対象としたイベントの開催 NPO高知市民会議と協働して子育て世代を対象としたイベントを開催。準備から当日の運営まで、民生委員や主任児童委員にも協力を得て、取組みを実施した。 (7月開催)子育て支援に関わる活動者同士の交流を目的に開催 参加者:37名 (11月開催)子育て世代を対象に開催 参加者:68名		【情報発信】 ・ホームページ運営 (アクセス数) 165,000/年 ※リニューアルにより実績値のアクセス数カウントできず、ページ閲覧総数が参照値となる ・フェイスブック運営 (記事掲載数) 50回/年	B	ホームページの内容の見直しを継続し、市民へより情報の伝わりやすい形を検討することで、アクセス数の増加を図る。 動画を活用した広報、啓発活動をSNS等で行い、デジタルネイティブ層など、幅広い層へのアプローチを展開する。
		〇高知市内の各圏域において、地域共生社会の実現に向けて第2期地域福祉活動推進計画の周知を行った。 ①計画の説明 48回(延べ471人) ②地域福祉コーディネーターのチラシ配布 418回(延べ人数3,826人) ③ボランティアセンターの説明 42回(延べ人数482人) 〇「ほおっちょけん」キャラクター広報物 ①「ほおっちょけん」焼印付どら焼き(菓舗浜幸協力)を483個販売。 ②名士チャリティ色紙展示即売会事業にて、無償で企業・名士の協力を得る。 ・昨年に続きトートバッグ専門ブランド「ROOTOTE」がほおっちょけんトートバッグを製作、SNSにて発信及び販売 ③市民等より地域福祉活動への寄付によりほおっちょけんバッジを40個配布 ④高知市内の小中学校等の児童生徒等への啓発のため、ほおっちょけんシールを5,093枚配布 ほおっちょけんの気持ちを伝える絆創膏を作成、ほおっちょけん学習の際に358枚配布 企業版ほおっちょけん学習を実施した企業に認定ステッカーを18枚配布 ⑤ほおっちょけんポロシャツを就労支援事業所きずなで製作・販売 54着 ⑥ほおっちょけんボールペンをSDGsイオンモールイベント等で配布59個	ほおっちょけんシール配布数 5,000枚/年 ・ほおっちょけんバッジ 配布数1,000個	B	ほおっちょけんLINEスタンプ(高知県共同募金会地域力増進枠助成)を活用し既に繋がっている市民により市社協への愛着を持ってもらうとともに、ほおっちょけんガチャポン(高知県共同募金会地域力増進枠助成)を活用し、子育て世代など、現在つながりの薄い世代への啓発を模索する。 また年々周知度も高まり、盛り上がりを見せている名士チャリティ色紙展を活かした「ほおっちょけん」の啓発を検討していく。 引き続き、各地域に地域福祉コーディネーターが出向き、地域で活動する各種団体や組織の代表者、ボランティアや各種集いの場等のお世話役等に働きかけ、各種周知・啓発(第2期地域福祉活動推進計画、地域福祉コーディネーター、ボランティアセンター、ほおっちょけん相談窓口等)を行う。	
		〇ほおっちょけん学習(福祉教育)の推進 ①ほおっちょけん学習の開催 開催数 保育園・幼稚園 7か所 小学校(放課後児童クラブを含む) 13か所 高等学校・専門学校での福祉教育の実施(春野高校、高知福祉専門学校にて地域福祉の授業を実施) 民間企業 2社 ほおっちょけん学習を受講した人 940名 学習に参画した地域住民 80名 ②福祉教育の拡充に向けた取り組み ほおっちょけん学習サポーターの養成 新規登録者 28名(総数77名) ほおっちょけん学習サポーターフォローアップ研修の開催 2回 (4月開催)江ノ口東地区と下知地区のほおっちょけん学習サポーターが実践事例を報告 参加者:43名 (11月開催)「地域で育てる・支え合う・ふだんのくらしのしあわせづくり」 参加者:29名 講師:日本福祉大学 社会福祉学部 教授 原田 正樹氏 ③ふれあい体験学習 受講生4,704人	【「ほおっちょけん」の展開】 ・ほおっちょけん学習 (福祉教育) 保育園等 20園 小・中学校 18校 地域・民間企業 40か所 ・ほおっちょけん学習 サポーター (新規) 40名養成 ・ふれあい体験学習 【市委託事業】 5,000名/年	C	福祉教育は児童・生徒だけを対象としたものではなく、	

	事業内容	取組状況(令和5年3月末時点)	進捗評価(令和5年3月末時点)		
			2024年度(目標値)	評価	今後の課題等
「ほおっちょけん」のひとづくり	活動につながるきっかけづくり	<p>○既存ボランティアへの情報発信 既存ボランティア登録者へ2か月に1回、ボランティア活動の情報紙を発送する。その情報によりボランティア活動へつながった事例44件。ボランティア情報と併に、コロナ禍でも感染に注意しながら地域活動を絶やさずにつながり続けることができるよう情報発信を行う。</p> <p>○ボランティア登録者の増加への取り組み こうち笑顔マイレージの受入施設は、緊急事態宣言解除後も外部からの立ち入りを制限する施設が多く、ボランティアを受け入れる環境になかった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうち笑顔マイレージボランティア 新規登録者149名(総数 361名) ・気くばりさん 新規登録者16名(総数378名) ・福祉委員 新規登録者4名(総数 123名) 導入11地区 ・生活支援ボランティア 39名(総数105名) ・ほおっちょけん学習サポーター新規登録28名(総数77名)再掲 <p>○ボランティア団体への支援 ボランティア保険の案内受付</p> <p>○ボランティアのニーズ受付 関係機関からの相談件数 69件</p> <p>○ボランティアのマッチング 寄せられた相談に対して気くばりさんやマイレージボランティア等をマッチング 279件</p> <p>○ボランティアの研修 三里地区、一宮地区、秦地区(他5地区)にて生活支援ボランティア養成講座を開催 小高坂地区、下知地区にてほおっちょけん学習サポーター養成講座を開催 三里中学校にて、ボランティアに関するほおっちょけん学習を実施 リハビリテーション専門学校にて、ボランティアをテーマとするカリキュラムにCSWが講師として協力</p> <p>(新規)生活支援ボランティアスキルアップ研修～木枯し紋次郎セミナー～ 参加者:11名 生活支援ボランティア養成講座を修了し登録している方を対象に、より専門的な知識を習得することで、地域での支え合い(互助)の活動の円滑化・活性化を目的としたスキルアップ研修を実施した。</p>	<p>【ボランティア登録者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうち笑顔マイレージ 800名 稼働率80% ・気くばりさん 900名 稼働率80% ・福祉委員 導入25地区 500名 	C	<p>昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら活動を続けているが、自粛を余儀なくされているのが現状。コロナ前に比べ、ボランティアの活躍の機会が減少しているため、ボランティア登録者やボランティア受け入れ施設の拡大とともに、活動の工夫が必要である。</p> <p>ほおっちょけん相談窓口の全市展開に合わせて、生活支援ボランティアの養成を計画的に進めていくとともに、登録者へのフォローアップ体制も整備する必要がある。</p>
	担い手がいきいきと活躍できる環境づくり	<p>○市の実施する人材育成講座等での啓発 高知市老人クラブ連合会の会報にて、こうち笑顔マイレージを周知</p> <p>○学生等の若い世代との協働 学生の地域活動への参加 延べ304名 地域福祉活動や街頭募金活動等を大学生や専門学生に情報提供し、ボランティアマッチングを実施(三里中)研修を受けた学生が、生活支援ボランティアと共に独居高齢者の資源ごみ出しを支援</p> <p>○高齢者の社会参加の促進 こうち笑顔マイレージボランティアの登録者が登録施設でのボランティアにとどまらず、地域での困りごとへのちょっとしたボランティアへつながるよう情報提供を行った。 生活に関するちょっとした困りごと等をお手伝いする生活支援ボランティア39名の養成。(再掲)</p> <p>○生活支援ボランティアの活動支援 「ほおっちょけん相談窓口」に寄せられる相談の解決を担う人材を養成する仕組みづくりとして展開 生活支援ボランティアの活動を通じて、地域において困りごとを抱えた人や、気になる世帯の情報を得られることにより、地域における支え合いの意識の醸成にもつながっている。</p> <p>(新規)○企業による生活支援ボランティアの実施 (株)セントラルグループの新人研修の一環として、高齢者宅の年末の大掃除を実施。自力では難しい窓ふきや風呂掃除、草刈りなどを実施。</p>			B
ふくしの担い手を支える	担い手の活動を支える	<p>○ボランティアへのフォローアップ体制 フォローアップ研修 1回 テーマ「“わたし”と“わたしたち”と“みんなあ”でボランティアを考える」参加者:7名</p> <p>○非対面型ボランティア活動の試行実施 ZOOMを活用して、介護事業所とボランティアを繋ぎ一芸披露を行う。2事業所を試行的につなぐ</p>	<p>【既存ボランティアのフォローアップ体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに関する相談 件数100件/年 ・ボランティア連絡会2回/年 ・フォローアップ研修2回/年 	B	

	事業内容	取組状況(令和5年3月末時点)	進捗評価(令和5年3月末時点)																	
			2024年度(目標値)	評価	今後の課題等															
「ほおっちょけん」のまちづくり	その人らしい暮らしを支える	○就労準備支援事業拡充 <ul style="list-style-type: none"> 利用者数:19名(新規利用者7名) 協力事業所の開拓(就労に不安を抱える方の受け皿の確保) <ul style="list-style-type: none"> 協力事業所登録数 ⇒ 30か所(新規開拓 2か所) 協力事業所での職場体験活動や社会参加活動へのマッチング ⇒ 8か所8名 参加者に応じたプログラムの実施(日常生活や社会生活の自立と就労に向けた準備) <ul style="list-style-type: none"> 就労準備支援プログラム・・・58回 就労訓練プログラム・・・100回 社会参加プログラム・・・685回 職場体験プログラム・・・4か所(4名) ほおっちょけんカレンダーの作成と配布 <ul style="list-style-type: none"> プログラム内でカレンダーづくりを実施。「ほおっちょけん」をモチーフに様々な種類を作成、各所に配布。事業周知やほおっちょけんの認知度向上、利用者のモチベーション向上にもつながった。 A3壁掛け3種類232部、卓上用3種類241部 配布先:市役所各課,民児協,地区社協,町内会連合会,協力事業所,ほおっちょけんマンスリーサポーター等 		B	8050問題との関連が深い高齢者支援事業所・機関への事業周知、連携による利用者のアウトリーチ。地元企業に対する広報活動の充実と事業理解による雇用の可能性の拡大。															
		○新型コロナウイルス感染症への対応 <ul style="list-style-type: none"> 生活福祉資金特例貸付の実施(令和2年3月～令和4年9月) <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で減収した方に対する生活資金貸付の受付業務を人員体制強化し行った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>申請件数合計</th> <th>貸付金額合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○緊急小口資金特例貸付</td> <td>6,979件</td> <td>1,227,040,000円</td> </tr> <tr> <td>○総合支援資金特例貸付</td> <td>5,390件</td> <td>2,824,640,000円</td> </tr> <tr> <td>○総合支援資金延長貸付</td> <td>2,990件</td> <td>1,568,050,000円</td> </tr> <tr> <td>○再貸付</td> <td>3,668件</td> <td>1,942,370,000円</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○住居確保給付金の支給 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で対象拡大した家賃給付の受付業務を継続して行った。 ○対応件数・・・131件 ○決定件数・・・53件 (うち、新規申請27件、延長申請6件、再延長6件、再々延長0件、再申請14件) 		申請件数合計	貸付金額合計	○緊急小口資金特例貸付	6,979件	1,227,040,000円	○総合支援資金特例貸付	5,390件	2,824,640,000円	○総合支援資金延長貸付	2,990件	1,568,050,000円	○再貸付	3,668件	1,942,370,000円		B	令和4年6月から緊急小口特例貸付及び総合支援資金特例貸付(初回)の償還免除申請を受付、令和5年1月より償還開始する。 生活に困窮している世帯については、アセスメントの状況により、高知市生活支援相談センターと連携するなどして課題解決支援を実施する。
			申請件数合計	貸付金額合計																
		○緊急小口資金特例貸付	6,979件	1,227,040,000円																
		○総合支援資金特例貸付	5,390件	2,824,640,000円																
○総合支援資金延長貸付	2,990件	1,568,050,000円																		
○再貸付	3,668件	1,942,370,000円																		
○中核機関の受託 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度より高知市成年後見利用促進基本計画に基づく中核機関を受託。既存機能を活かした事業運営へ転換した。 各権利擁護関連専門職団体と地域連携をテーマに話し合いの場を持ち、連携強化に努めた。 各専門職団体、民児協、医療ソーシャルワーカー協会、地域包括、スーパーや銀行、行政窓口などにチラシを配布 第6回成年後見セミナーを開催。コロナ禍のなか定員を上回る申し込みがあった。受講者:61名 また、出前講座等13件実施した。 市民後見人材バンク登録者に対し、年2回の研修を開催。市民後見人養成を検討する自治体等も参加。市民後見人活用について助言などを行い広域支援も行った。 <ul style="list-style-type: none"> ○日常生活自立支援事業 <ul style="list-style-type: none"> 課題解決が困難な事例や判断能力が低下した事例については、成年後見制度へのつなぎを行った。 ○これからあんしんサポート事業 <ul style="list-style-type: none"> 判断能力が低下した方に対し、成年後見制度のつなぎを行い、切れ目のない権利擁護支援を実施した。 		B	福祉サービス利用支援部門職員の育成を行い、成年後見制度利用促進に向けた行政や関係機関との連携を強化するとともに、市民後見人受任案件増加に向けて関係機関へ働きかけや活動の場の検討を行う。 これからあんしんサポート事業は、支援上発生する課題解決なども目的に見直しを行う。																	
○在宅福祉サービスの職員が個別支援の利用者周辺地域の困りごとに気付き、相談窓口等につなげる仕組み 「地域はっと」の取り組みを実施している。(相談実績1件)		C	利用者様の困りごとや、地域の困りごとにアンテナを広げているが、「地域はっと」の実績は少ない。「地域はっと」に取組む意義を、再度職員等への周知を行い継続して実施する。																	
○各種会議への参画 <ul style="list-style-type: none"> 各専門機関等との定期的な意見交換や日頃からの協議等通して、役割分担や今後のかかわり等について共通理解を深めている。特に、地域福祉コーディネーターと同様に地域づくりをコーディネートする機能を持つ地域包括支援センターとは、目的や機会を共有することで協働した好事例も生まれている。 ①地域包括支援センターブロック会41回 ②地域ケア会議 51回 ③地域包括支援センターとの意見交換 66回 ④障害委託センターとの意見交換 32回 ⑤スクールソーシャルワーカー(SSW)との意見交換 11回 ⑥認知症サポーター養成講座での協働 13回 ⑦個別支援分野との連携 328件 <ul style="list-style-type: none"> ○行政、専門機関、社協の協働による地域支援強化についての検討 ○屋上屋を重ねず、住民活動にとって「負担」とならない提案の検討 		B	各種専門機関や高知市の各所管課とは協働する機会も多いため、地域別共生カルテ作成の機会や日頃からの情報共有等を通して、役割分担や今後の地域へのかかわり等について共通理解を深める必要がある。 特に、地域包括支援センターとは、ほおっちょけんネットワーク会議の協働運営など、連携・協働体制の強化を図る必要がある。																	

	事業内容	取組状況(令和5年3月末時点)	進捗評価(令和5年3月末時点)		
			2024年度(目標値)	評価	今後の課題等
ほおっちょけん のまちづくり	ひとが つながる 場づくり	<p>○「集いの場」づくり 立上げ支援 ①子育てサロン 1か所(総数 18か所) ②サロン 2か所(総数 84か所) ③認知症カフェ 2か所(総数29か所) ④子ども食堂 9か所 (総数40か所)</p> <p>○住民が主体的に地域の中で課題解決できる仕組みづくり ・ほおっちょけん相談窓口に寄せられる困りごと等を課題解決に向けて検討できる仕組みとして、ほおっちょけんネットワーク会議を実施(一宮、江ノ口西、秦、初月、旭、御豊瀬) 「話し合いの場づくり」の取り組みに関しては、地区の団体代表者等に働きかけを行い、既存の会議体の活用についても検討するなど、各地区の実情に応じた取組の検討を進めている。 また、地域福祉コーディネーターと同様に地域づくりをコーディネートする機能を持つ地域包括支援センターとは、協働して会議を運営するなど、地域にとって負担感の少ない取組を実施している。</p>	<p>【ひとが つながる 場づくり】</p> <p>・集いの場 ①子育てサロン 41か所 ②サロン 120か所 ③認知症カフェ 41か所 ④子ども食堂 41か所</p> <p>・話し合いの場 小地域単位 30回/年</p>	C	<p>新型コロナウイルス感染症の流行により、会議や集いの場の運営においても自粛を余儀なくされるなど活動の継続が難しくなっている。一方で、「このままではいけない」との思いから新たに活動を始めるケースも見られ始めており、ウィズコロナを意識した取組の展開を支援する必要がある。</p> <p>ほおっちょけん相談窓口に寄せられる困りごとの解決に向けた話し合いの場として、ほおっちょけんネットワーク会議の全市展開を進める必要がある。その際には、地域側の負担軽減を考慮し、既存の会議体の活用に向けて、地域団体の代表者との検討を進める必要がある。</p> <p>また、会議の運営においては、同機能を持つ地域包括支援センターと目的や機会を共有することにより取組を進展させるという視点を大切に連携・協働体制の強化を図る必要がある。</p>
	多様な 交流の 機会	<p>○地区社会福祉協議会連合会による情報交換会・研修会等の開催支援 ○全体研修会:1回 ○世話人会:2回 ○福祉委員会の開催 朝倉地区・江ノ口東地区において福祉委員会を開催。日頃の活動の共有や今後の活動の展開に向けて意見交換を実施。江ノ口東地区においては、これまで地域で交流の持たれていなかった住民が参加できるよう、地区内の公民館や集会所を活用した「お出かけサロン」を企画・実施するなど、活動の幅を広げている。</p>		B	<p>新型コロナウイルス感染症の流行により、地区社会福祉協議会連合会の運営においても自粛を余儀なくされるなど、活動の継続が難しくなっているため、開催方法等の工夫が必要である。</p>
	地域で 共に支 え合う しくみ づくり	<p>○『ほおっちょけん相談窓口』運営及び開設に向けた支援 ①ほおっちょけん相談窓口の説明 234回(延べ8,155人) ②既存の相談窓口及びモデル地区に対する支援 ・実施地区(R2:旭・江ノ口西・三里・一宮・春野 R3:五台山・高須・秦・初月・大津 R4.11~全市) ・毎月1回既存の相談窓口への訪問(相談内容及び状況の確認を実施) 相談件数98件(令和4年4月～令和5年3月末) ③相談窓口の新規開設に向けた支援 ・新たに対象地区となる地域の各種団体や関係機関等への説明や協議、民生委員児童委員、町内会へのアンケート調査を実施した。 ④多機関と協同した取組 ・SDGsの一環で高知市と高知市社会福祉法人連絡協議会と協同で「出張ほおっちょけん相談窓口」を開催し、窓口の広報、啓発を実施。(相談件数10件、チラシ等、広報物の配布500セット)</p> <p>○社会福祉法人連絡協議会の取り組み 3つの部会(地域公益活動推進部会、相談窓口推進部会、災害対策連携部会)で取組を展開。出張ほおっちょけん相談窓口の開催や職員研修会の実施、複数法人が連携した福祉教育、フードドライブの取組を実施。また、令和4年10月より生活困窮者等からの相談対応を総合的に行うとともに、逼迫した状況にある場合には、現物給付等による経済的支援を行うなど、生活困窮者等の自立を支援することを目的とした事業を実施。</p>		B	<p>ほおっちょけん相談窓口の全市展開に合わせ、相談窓口へのフォロー、相談対応、地域の中で解決できる仕組みづくり及び話し合い場の運営等については、継続して支援を実施していく必要がある。</p> <p>ほおっちょけんネットワーク会議の運営においては、地域包括支援センターとの協働を視野に検討を進めるとともに、地域における担い手の負担軽減を考慮し、地域の既存の会議体を整理し、同機能を持つ会議の活用について住民とともに検討していく。なお、地域の中で課題解決できる仕組みづくりに向けては、住民や地縁団体に加え企業や有償ボランティア団体等とのネットワークの構築を進める。</p> <p>また、ちょっとした困りごとに対応する生活支援ボランティアの養成を進めるとともに、既存の登録者のスキルアップ体制についても整備する必要がある。</p> <p>今後は、既存の活動を継続するとともに、取組内容を検証し、更なる活動の発展に向けて検討を進める必要がある。</p>

		事業内容	取組状況(令和5年3月末時点)	進捗評価(令和5年3月末時点)		
				2024年度(目標値)	評価	今後の課題等
「ほおつちよけん」のまちづくり	地域で共に支え合うしくみづくり	大規模災害に備える仕組みづくり	<p>○災害時に備え、平時からの行政との協議体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国庫補助金を活用した災害VC運営経費の予算確保に向けた協議(地コミ) <p>○三者協定及び災害VC連絡会の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政を加えた四者災害VC検討会議の開催(3回) ・災害VCネットワーク構築及び災害VC運営マニュアル作成 <p>○災害VCネットワーク会議の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害発生時にスムーズに協働できるよう情報交換を実施。(R4年度2回開催)うち1回は模擬訓練。ネットワーク構成団体22団体(市社協含) <p>○研修や模擬訓練の実施</p> <p>(新規) ・高知市災害VC運営模擬訓練(12月 参加者32名)</p> <p>○災害VC職員研修及び訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県社協主催研修(災害VC運営基礎研修9月14名出席)(災害VC中核スタッフ研修11月4名出席) <p>○奈良市社協, 倉敷市社との災害時相互支援協定に基づく連携体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良市社協, 倉敷市社協担当者会議の開催(5回 Web会議)合同研修企画及び情報共有 ・奈良市社協, 倉敷市社協合同研修(11月奈良市会場にて実施 現地参加6名 オンライン参加8名) 		B	<p>災害VCの円滑な運営に向けて、災害VCネットワーク会議の参画団体をはじめとする関係団体、行政と平時からの連携・協働体制を取りながら、災害時に迅速な対応ができるよう地域情報等の蓄積と、現存のネットワークを拡大し、強化していく必要がある。</p> <p>災害VC職員理解度指標の見直しを図り、指標に基づいた研修の実施・訓練計画の作成や、他市町村への支援メニューの整理、備蓄や資機材の整備に取組めなかったため、次年度以降段階的に実施していく。</p> <p>大規模災害時の相互支援協定を締結している倉敷市社協と奈良市社協の取組みを学び、復興支援のしくみづくりに取り組む必要がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、今後も地域住民と協働した模擬訓練を継続的に開催し実践経験の積み上げを図る。(地域)</p>

	事業内容	取組状況(令和5年3月末時点)	進捗評価(令和5年3月末時点)		
			2024年度(目標値)	評価	今後の課題等
市社協の機能強化	市社協の上周知度の	<ul style="list-style-type: none"> ○ソーシャルメディアを活用した広報(関心を高めるきっかけづくりへ記載) ○「ほおっちょけん」キャラクター広報物(「ほおっちょけん」の住民意識づくりへ掲載) ○ほおっちょけん出前講座の実施 17件, 受講者397名 ○地域福祉コーディネーターの地域支援活動を通して, 市社協の周知を行う ○活動報告誌を作成し, 当会に寄附いただいた方288名に対し活動の周知を行った。 	【高知市社会福祉協議会の知度】 ・「名前も活動の中身もよくており, 活動も少しは知っている」人の割合	B	引き続き, ほおっちょけんキャラクターを活用して, 広報媒体の拡充を図る。 活動報告誌を通して, 当会がどのように地域生活課題に対して取組を行っているのか発信を行っていく。市民に対して更に情報発信をしていくため, ユーザー数がより多い新たな広報媒体(公式ライン)等で動画を活用した広報の強化を図る。
	地域福祉コーディネーターの役割・機能の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスの運用による計画的な人材育成 ①【OJTの実施】 新任職員へのOJT担当者の配置 ・入職3年目までの職員を対象に, 月に1回程度「フォローアップ研修」を実施し職員が学び合う場づくりを行った。 ②【OFF-JTの実施】 ・高知縣市町村社協連絡会, 高知県社協主催のコミュニティソーシャルワーカー養成研修を受講した。 ③【SDSの実施】 キャリアパスと自己啓発カードを連動させ, 目指す地域福祉コーディネーター像を明確にするとともに, 個人の課題を自ら考え目標設定をすることができた。 		B	地域福祉コーディネーターとしての経験が浅い入職3年未満の職員を対象とした「フォローアップ研修」は定着し, お互いが学び合う機会になっており, 今後も継続し取り組む。 地域福祉コーディネーター全体としては, 「地域支援事例検討会」を通じて担当地区以外の地域の実情を知り, 追体験すること, スーパーバイズを受けることにより, 質の向上を目指す。(地域) 引き続き, 他機関主催の各種講座・研修に積極的に参加し, 地域福祉の向上に取り組む市社協職員としてのスキルアップを図る。(総務)
	複合的な地域福祉課題への解決力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○制度の挟間や潜在化している生活困窮者への支援, 個人の権利を擁護するための専門的な知識や技能の取得に向けて, zoomを利用した国, 県, 県社会福祉協議会主催等の研修会や連携会議に積極的に参加し, さらに職場内での共有も図っている。 ○地域支援事例検討会(9回)やフォローアップ研修会(配属3年未満対象)を行うことで, 職員同士が学びあい高めあえる機会になるとともに, スーパーバイズを受ける機会にもなり, スキルアップにつながった。 ○地域福祉活動推進部門職員と相談支援・権利擁護部門職員が東西南北の圏域ごとに, エリア連携会議を開催し, 職員の相互理解とコミュニケーションの円滑化, 個別支援と地域支援の一体的な展開による市社協内での部門間連携を強化している。 		B	市社協内の連携強化の取組として実施しているエリア連携会議については, 各圏域のリーダーが集まり, 圏域で解決することが難しい問題, どの分野にも属さない制度の狭間の課題, 課題解決のために不足する資源の創出に向けた検討などを行う必要がある。
	地域福祉課題に取り組む組織的チャレンジ	<ul style="list-style-type: none"> ○地域福祉課題への取り組み ①高知市, 高知市民生委員児童委員協議会連合会, 高知市地区社会福祉協議会連合会, 市社協の4者合同主催の高知市社会福祉大会において, 社会情勢に沿ったテーマを掲げて啓発等を行う。 テーマ「地域を支えて好きになる～多世代の地域参加を目指して～」を企画。新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み中止したが, 社会福祉大会であまり取り上げることのなかった多世代の地域参加について, 取り上げることで, 今後の地域福祉活動推進への布石を打つことができた。 ○ファンドレイジングの取り組み ① 寄附アプローチ 「ほおっちょけん」焼印付どら焼き(菓舗浜幸協力)114個を売り上げた。また, 令和3年度に開始したほおっちょけんマンスリーサポーターの申込にかかり, 関連個人や企業等8社を訪問しアプローチを行い, 13名4団体の申込を受けた。また, 過去5年間に寄附のあった個人や企業及び社協会員に活動報告誌とニュースレターを2回と年賀状を送付し, 寄付に対する感謝の気持ちを伝えた。 ②自主財源の確保 「ほおっちょけんマンスリーサポーター」制度の拡充を図った。 ○共同募金の取り組み ①コロナ禍での募金活動となり, 非接触での活動を模索。新規でチラシの作成や振込に切り替える等の工夫を地区へ提示し, 取組みを支援する。また各地区にヒアリングを行いコロナ禍での募金活動について地区委員会と意見交換を行う。 ②高知市共同募金委員会助成金として18団体へ助成を行う。 ③助成審査の見直し, 公募助成先のインタビュー実施 ④公募助成先に呼び掛けて街頭募金を実施(7団体11名参加) ⑤「赤い羽根」×「ほおっちょけん」バッジ500個作成 		B	社会福祉大会では関係機関との継続した取り組みを進めるとともに, 現在社会におけるタイムリーな福祉課題に焦点をあてた啓発ができるような取組を推進していく。 ファンドレイジングの取り組みでは, 課題解決に向けて組織的に取り組むため, 外部研修への参加や職員研修を継続して開催し知識を習得する。 令和3年度末よりマンスリーサポーター制をスタート。自主財源の確保に取組むとともに, 当該制度の推進を行う事自体が市社協引いては地域福祉の推進に繋がることを意識した取組を進めていく。(総務)